

## イタリア・ボローニャ市における公共空間の役割 ーサラボルサ図書館を中心にー

栗田 美桜

本研究では、イタリア・ボローニャ市における公共図書館を中心とした公共空間の役割を明らかにすることを目的とした。研究対象は、イタリア・ボローニャ市の公共空間とし、主な対象として美術館・博物館・劇場等の文化施設を除く生涯学習施設等の公共空間の調査を行った。研究方法は、文献調査、ウェブサイト調査を用いた。

本研究では、イタリアとボローニャの公共空間の特徴と、イタリア・ボローニャ市の公共空間として、サラボルサ図書館、サラボルサ図書館以外のボローニャ市立図書館、ボローニャ市の生涯学習施設、住民主導の公共空間である「ソーシャルストリート」という4つの施設の概要や実態を明らかにした。

イタリアとボローニャ市の公共空間の特徴は、「広場」という場所は人が集まり社交を展開しているという捉え方であった。また、「広場」はイタリアの公共建築やコミュニティを作る場において常に根底にあるものである。サラボルサ図書館については、ボローニャ市の公共空間において中心的役割を果たしていた。サラボルサ図書館以外の16館の図書館は、それぞれが独立して周辺住民にサービスを提供するほか、地域特性を生かした資料の保存を継続していた。また、市民の文化的・情動的ニーズに対応した施設として総合情報図書館という新しい形の図書館も生まれていた。ボローニャ市では、多様な目的に応じて民間・公立問わず生涯学習施設が作られ、市民が必要な場面でこれらの施設を利用するのが一般的であった。住民主導の公共空間「ソーシャルストリート」は、ボローニャ市で生まれたコミュニティであり、フェイスブック上の「バーチャル」を組み合わせた人と人との繋がりに目を向けた新しい共同体の形であると言える。

本研究を通して、イタリア・ボローニャ市の公共空間は、ボローニャ市に歴史地区が残っているため、かつての空間が把握できるという場の構造が、「建物」よりも「広場を含む空間」を重視すること、住民主導の公共施設や民間の公共施設も重要な役割を果たしていること、サラボルサ図書館で開催される活動が生涯学習の一翼を担うだけでなく、市民の生活に寄り添ったサービスを提供していることが明らかになった。しかしながら、生涯学習施設を含む公共施設は、民間施設が多いがゆえに全貌を明らかにすることは困難であり、民間の施設が多く存在し市民生活に重要な役割を果たしていると指摘するにとどまった。また、ボローニャ市民や施設利用者の意識や行動については調査が及ばなかったため、今後、調査方法をメール調査やフィールドワークに広げていくことで、公共施設の情報や公共空間に対する市民の認識をさらに詳細に明らかにすることが可能になる。

(指導教員 吉田 右子)